

ドン・ボスコの理解を深める為の教材

Teaching Material for a Better Understanding of Don Bosco

AD30 橋本 百合奈
指導教員 西野 隆司

1. 研究目的

サレジオ高専の一年次に野尻湖で見たドン・ボスコについてのスライドは、理解しづらい面が多々見受けられた。サレジオ高専の一員として学ぶ自覚を芽生えさせ、より充実した学校生活を送る為にも、ドン・ボスコについて理解することは重要である。

今回の研究では、既存のスライドを研究し、改めて新しいスライドを一から制作する。

2. 調査と分析

既存のスライドを上映後、上映時間の長さ、話・絵の解りやすさ、好きなエピソードについてのアンケート調査を実施した。1年生4クラスを対象に行い、そのうち2クラスは実際にサマーキャンプに同行して実施した。

既存のスライドは、1ページにつき1つ程の短いエピソードを繋げて、ドン・ボスコの一生を追っていく話の構成になっている。

【アンケート結果から得られた改善すべき点】

- ・スライドの上映時間が長く、後半になると飽きを感じている学生が多い。
- ・端的になり過ぎて、話が解りづらい。
- ・スライドの文字が読みづらく、聞き取れなかった時に話を見失ってしまう。
- ・元が絵本のもをスライドに貼り直しているため、画質に難がある。

3. コンセプトの立案

「時を忘れる物語」

話が解りづらい、絵が見にくい等の難があると、実際の上映時間より長く感じてしまう。

話や絵をまとめ直すことで、解りやすく夢中で見ることが出来、結果として体感時間が短くなるスライドを目指して制作する。

4. デザイン展開

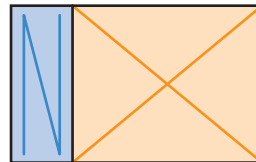
大きな画面になるよう、通常4:3の画面を16:10に設定し、ワイドに見せられるようにした。

さらに、画面を有効に使う為、文章は縦使いとし、配置する場所は左側に統一した(図1)。イラストと文章の境界を明確にするため、文章の

バックは黒色とし、白抜きの文字を入れた。また、一度に入れる文章は6行以下にまとめるようにし、目で追いやすくするようにした。

話は、端的なものを繋げるのではなく、全体がひとつの話としてまとまるように、一から構成を練り直すことにした。1エピソードにつき2・3枚のページを割くことで、丁寧で解りやすいストーリー構成にした。

5. 完成図



(図1)



6. 結論

1・2年生の全クラスと担当の先生方に見てもらった結果、大半の学生と先生方から既存のスライドより解りやすくなったと好評を頂いた。

文字位置の指摘が寄せられたので、右側に配置していた文章を左側に移動し、新たに2ページ追加し、7ページに修正を加えた。

対象年齢を下げたスライドにも応用出来るのではという意見があり、文章を大幅に変更した、小学生を対象にしたスライドも作成した。

高解像度で制作したので、紙媒体への応用も可能である。そこで今後は、書籍に起こすなど、より広い展開を行っていきたい。

7. 参考文献

- ・キャロル・モンマルシェ (文)・オーギュスタ・キュレリ (絵)・児島輝美 (訳), 『聖ヨハネ・ボスコ』, ドン・ボスコ社, 2001
- ・テレジオ・ボスコ, 『ドン・ボスコ ダイジェスト版』, ドン・ボスコ社, 2007